



近年、乳がんにかかる女性が増えています。女性に多い病気のため、婦人科で受診するものと思っている人も多いのではないのでしょうか。乳がんの診断・治療は外科で行われます。副院長の北村正敏医師(写真:左)にお話を聞いてみましょう。

Q 乳がんにかかる人の年齢層と、その傾向を教えてください。

A 主に30歳～80歳の方が乳がんにかかっています。日本人に見られる特徴としては、働き盛り(40歳後半～60歳前半)の人、特に50歳代が多くなっています。また最近、乳がんには4つのタイプがあることが分かって、タイプに応じた治療が行われるようになってきました。

Q 主な症状と早期発見のために、自分でチェックできる方法を教えてください。

A 乳房にしこり(コリッとした固いもの)がある、乳首から分泌物(血液など)が出る、乳房に違和感やえくぼがある、などが主な症状です。早期発見のためにも次の①②を時々行ってください。

①乳房を鏡に映して、形に変化がないかを見る。※両腕を下げた状態と上げた状態でチェックする。

②仰向けになり、乳房をなでるように触って、しこりがないかをチェックする。

マンモグラフィー(乳房X線撮影)検査をしないと分からない乳がんもありますので、定期的に乳がん検診を受けることが重要です。仕事や家事・子育てと忙しい年代です。職場や家族の理解と協力が必要だと感じています。

! 気になる症状がありましたら、早めに外科のある医療機関で受診してください。

◆問合せ／市立病院総務課経営企画室 ☎22-2450 ◆ホームページ／<http://yonezawa-city-hospital.jp/>

※「ここが知りたい!米沢市立病院紹介」は、毎月1日号に掲載します(10回連載)。